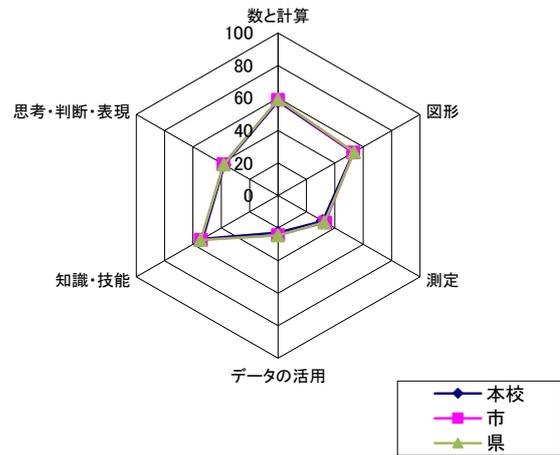


# 宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 58.0 | 58.9 | 59.2 |
|     | 図形       | 52.9 | 53.0 | 53.7 |
|     | 測定       | 31.4 | 33.1 | 32.6 |
|     | データの活用   | 22.8 | 24.4 | 24.6 |
| 観点  | 知識・技能    | 53.2 | 54.3 | 54.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 37.8 | 38.5 | 38.3 |



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況  | 今後の指導の重点   |
|--------|---|--|
| 数と計算   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は、58.0%で、県の正答率を1.2ポイント下回った。</li> <li>○「式の意味を言葉で説明したものについて、正しいものを選ぶ」の平均正答率は30.7%で、県の正答率を7.9ポイント上回った。</li> <li>●「数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える」の平均正答率は46.5%で、県の正答率を9.2ポイント下回った。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算技能の向上を目指して、朝の学習などの時間を利用したり、宿題の内容を工夫したりして繰り返し練習問題に取り組み、習熟を図る。</li> <li>・授業の導入で既習事項の復習をする時間を設けたり、教室の壁面に授業の要点をまとめて掲示したりすることで、見直しをもって自力解決していける場を設定する。</li> <li>・数の構成や数直線など、数字のいろいろな表し方に慣れさせる。</li> </ul> |
| 図形     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は52.9%で、県の正答率を0.8ポイント下回った。</li> <li>○「二等辺三角形になる図を選ぶ」の平均正答率は69.3%で、県の正答率を1.2ポイント上回った。</li> <li>●「球の半径を利用して箱のたての長さを答える」の平均正答率は50.9%で、県の正答率を2.0ポイント下回った。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・円と球については、直径、半径の長さから図形がイメージできるように、ICTなどを活用し平面図や断面図などに表して形を捉えられるようにしていく。</li> <li>・図形を扱う際には、具体物を操作する活動を取り入れることで、図形を多面的に捉えたり、変形した後の図形をイメージしたりする力を身に付けさせていく。</li> </ul>  |
| 測定     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は31.4%で、県の正答率を1.2ポイント下回った。</li> <li>○「前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める」の平均正答率は35.1%で、県の正答率を2.4ポイント上回った。</li> <li>●「地図から2つの道のりを読み取り、差を答える」の平均正答率は39.5%で、県の正答率を4.4ポイント下回った。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さや重さなどを測定したり、目盛りの数値の意味や単位の仕組みについてまとめたりする活動を通して、単位の変換に慣れさせ定着を図っていく。</li> <li>・習熟を図るために、プリントやドリル等で復習する機会を設ける等、宿題の内容を工夫する。</li> </ul>  |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は22.8%で、県の正答率を1.8ポイント下回った。</li> <li>○「示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する」の平均正答率は12.3%で、県の正答率を1.7ポイント上回った。</li> <li>●「棒グラフを読み取り、二番目に多い落とし物の種類を答える」の平均正答率は44.7%で、県の正答率を4.8ポイント下回った。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦軸の目盛りに示された数値と数値の間が何等分されているかを考える活動を充実させることで、1目盛りの大きさに着目できるように指導する。</li> <li>・データを活用する学習の際には、各グラフの特徴や利点をまとめることで、適切なグラフを選び出す力が身に付くように指導していく。</li> </ul>  |
|        |   |  |